



もてなしの心で語る わが街

えな自慢

えな自慢
27
えな史

武並神社本殿

いにしへの建築美を残す



当時の形に復元し、悠久のときを超えた本殿

ひと口メモ

建物をいったん解体しての大規模改修は、440年余の歴史で初めてのことで、事業費は、1億8千9百万円。解体調査で、彫刻やデザインなど戦国時代に再建された本殿の時代的な特徴や、再建当時の資料・部材が多く残されていることが判明した。

大井町の国道19号北側に位置する武並神社本殿は、室町時代の建築美を残す国の重要文化財。1220(承久2)年に創建されたと伝えられる。現在の本殿は、1564(永禄7)年に岩村城主、遠山景任が本願となつて再建されたものである。今回の工事は、腐朽した本殿を446年ぶりに全面解体後修理・復元することにし、2007(平成19)年から2年8カ月かけて、ことし6月に無事終了した。

解体修理により、戦国時代の大工が残した墨書が発見され、本殿工事は愛知県の熱田の大工が担当したことが判明した。また、詳細な調査で当時の材木が多数残っていることも分つた。今回の工事で、本殿は永禄時代の姿に復元。屋根には金箔を張った鬼瓦が施されている。

うっそうと繁る木立に囲まれた檜皮葺、入母屋造りの本殿はバランスもよく、素晴らしい建築美を誇っている。また、垂木の様式も古く、装飾に使っている幕股は古美術的な価値が高い。

えな自慢
28
えな水

大井ダム

日本初の発電用ダム



日本のハイダム技術の原点となった大井ダム

ひと口メモ

建設半ばに起きた関東大震災により、莫大な資金調達により困難となった。そこで桃介は、当時としては大胆かつ斬新なアメリカからの外資を導入する方法で、資金集めに成功。また、このダムは、木曾川電源開発の原点である。

大井町の中津川市蛭川境の木曾川に築かれた日本初の発電用ダム。日本の電力王・福沢桃介(福沢諭吉の娘婿)が、関西電力の前身の大同電力社長として、1924(大正13)年に建設した。木曾節で「男伊達ならあの木曾川の流れ来る水とめてみよ」と歌われるほど、激流の木曾川本流を最初に締め切った大規模ダムで、高さ53.4m・堤長258mは、完成当時東洋一の規模を誇った。空前の大工事は、莫大な資金の調達、大洪水による工事のやり直しなど困難の連続で、建設に携わった人は146万人。完成によって上流に恵那峡を形成し、ダム湖百選にも選定。2007(平成19)年には経済産業省の近代化産業遺産に認定された。

80年以上たった現在でも、最大出力84,000kWの電力を供給し続けている。



大井ダムの湖上を運航する遊覧船

次号は7月15日号
発行日は7月15日(木)です

広報えな No.131
2010年(平成22年)
7月1日発行

発行 恵那市役所 / 編集 企画課広報聴係
岐阜県恵那市長島町正家一丁目1番地1 ☎26-2111 / ☎25-6150
<http://www.city.ena.lg.jp/> ✉info@city.ena.lg.jp

『広報えな』7月1日号、1部当たりの印刷経費は約11.6円(税込み)です。



恵那市安心安全メール配信システム
登録用QRコード
問い合わせ 防災情報課(内線317)

『広報えな』は環境に優しい再生紙を使用しています。
この印刷物は石油系インキではなく、地球に優しい大豆油を使用したインキで印刷されています。

